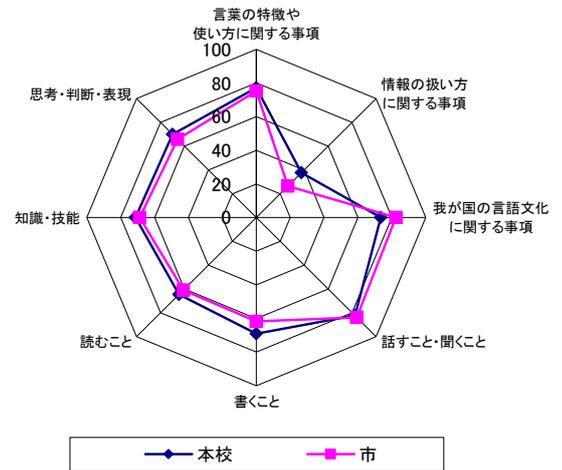


宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.2	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	37.8	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	73.5	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	82.3	83.9	84.2
	書くこと	69.0	61.7	64.5
	読むこと	64.6	60.9	61.0
観点別	知識・技能	71.3	68.8	70.3
	思考・判断・表現	69.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

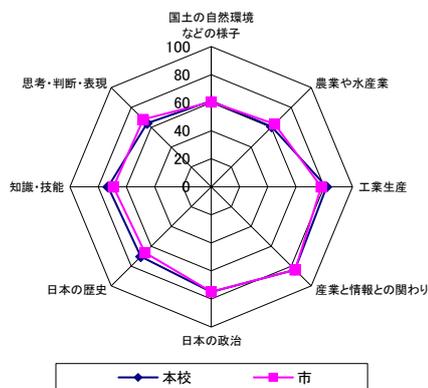
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、物語文や説明文の学習で、段落構成を考えて読み取りをしたり、日記や作文の宿題を計画的に出したりして、指導してきた成果である。</p> <p>●「三字の熟語の成り立ちについて理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・熟語の成り立ちについて復習するとともに、特に三字以上の熟語については、その構成や使い方について意識して取り上げるようにする。</p> <p>・新出漢字を学習する際、熟語として様々な活用の仕方を指導する。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、1人1台端末を活用し、資料を読み取ったり、複数の資料を関連付けたりする学習を行ってきた成果である。</p>	<p>・今後も調べ学習をする際に、資料の読み取り方や、資料を関連付けて考えることなど、資料を読み取るポイントを示し、簡潔な文章で書くことができるように指導する。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市より低い。</p> <p>●「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・和語、漢語、外来語の由来や区別について復習するとともに、漢字を学習する際、同じ意味を表す語の組み合わせを取り上げるなどして定着を図る。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市より低い。</p> <p>○「意図に応じて、質問を工夫しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。</p> <p>●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・話し合い活動では、話し合いの意図を明確にし、要点を捉えられるように指導する。</p> <p>・国語以外の学習でも、ペア学習やグループ学習を取り入れた伝え合う授業を意図的に行い、一人一人が目的意識をもって聞いたり話したりできるようにしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、週末に行ってきた日記指導や日々の授業で、目的に応じて意見文を簡潔にまとめる学習を繰り返し行ってきた成果である。</p>	<p>・今後も資料から読み取った内容を、目的に応じて簡潔に文章に表現したり、段落を意識して自分の考えをまとめたりできるように指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、1人1台端末やグループでの話し合いで、意見や感想を伝え合う活動を継続して行ってきた成果である。</p> <p>●「文章全体の構成を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・説明文では、段落ごとの要点を読み取ったり、指示語や接続語に着目させたりして、文章全体の構成を捉えられるよう丁寧に指導する。</p> <p>・読書活動を推進し、様々なジャンルの本に触れさせ、読むことの楽しさを味わいながら読解力の向上につなげられるようにしていく。</p>

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.2	60.5	65.8
	農業や水産業	60.5	63.3	66.0
	工業生産	81.6	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	83.7	83.8	76.6
	日本の政治	75.0	74.9	74.1
	日本の歴史	70.4	66.3	68.3
観点別	知識・技能	73.0	69.3	71.4
	思考・判断・表現	64.1	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

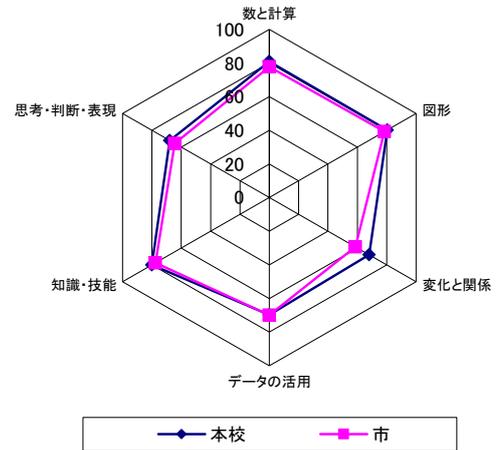
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市よりやや高い。 ○「季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業で資料の読み取りを繰り返し行ってきた成果である。 ●「公害について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図の活用や資料の読み取りを継続して行うことで、基礎基本の定着を図る。 ・公害について復習するとともに、環境問題について様々な資料をもとに学んだり、考えたりすることで、用語の理解や基礎基本の定着を図る。
農業や水産業	平均正答率は、市より低い。 ○「米の品質を高める工夫について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、総合的な学習と関連させながら、米づくりに関する調べ学習に取り組んだ成果である。 ●「日本の主な食料の自給率について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・米づくりの体験活動を行っており、また、農業従事者が多い地域でもあるため、体験から学んだことを話題にしたり、地域の方から話を聞いたりする活動を行うことで、引き続き米づくりに関する興味関心を高めていく。 ・1人1台端末を活用して調べたり、まとめたりする活動を取り入れることで、日本の農業の現状や課題について、一人一人が意欲をもって学べるように工夫していく。
工業生産	平均正答率は、市より高い。 ○「日本の主な輸出品・輸入品について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業で資料を活用し、丁寧に読み取りを行ってきた成果である。 ●「自動車の部品を再利用する目的について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・今後も、資料を正しく読み取ることができるよう、繰り返し指導する。 ・自動車工場の取り組みについて、動画を視聴して学んだり、自動車工場の見学を通して分かったことを話題にしたりして、基礎基本の定着を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市とほぼ同じ。 ○「情報の発信と受信の注意点について考えているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、社会科以外の教科や日常生活でも情報との関わり方について話題にしたり、説明したりしてきた成果である。 ●「産業における情報活用の現状について考えているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・情報について、実生活と関連させて考える活動を取り入れることで、実感を伴った理解につながるよう指導する。 ・外部講師を招いたり、産業において情報を活用している方の話を視聴したりすることで、広い視野をもって情報活用について考えられるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市とほぼ同じ。 ○「平和主義の基本的な考え方について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ●「基本的人権の尊重の基本的な考え方について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・ニュースや新聞など、時事問題と関連付けながら考える授業を展開することで、実感を伴った理解につながるようにする。 ・新聞やスライドを作る活動を取り入れ、学んだことを発信することで、理解を深められるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市より高い。 ○「鎌倉幕府の政治について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。 ○「豊臣秀吉の業績について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。授業で1人1台端末を活用して、多くの資料を読み取る活動を意図的にを行い、理解を深めてきた成果である。 ●「元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。	・歴史上重要な場所や史跡等の場所を、地図で確認する活動を意図的に授業に取り入れていく。 ・時代ごとに主要な歴史の人物やできごとをおさえ、練習問題に取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。 ・1人1台端末を活用したり、司書と連携を図りながら図書室や南図書館の本を活用したりするなど、今後も資料の読み取りを継続して行い、基礎基本の定着を図る。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.9	77.7	78.6
	図形	80.4	78.4	74.4
	変化と関係	68.0	58.7	53.0
	データの活用	69.7	69.9	57.2
観点別	知識・技能	80.0	77.5	74.0
	思考・判断・表現	67.9	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

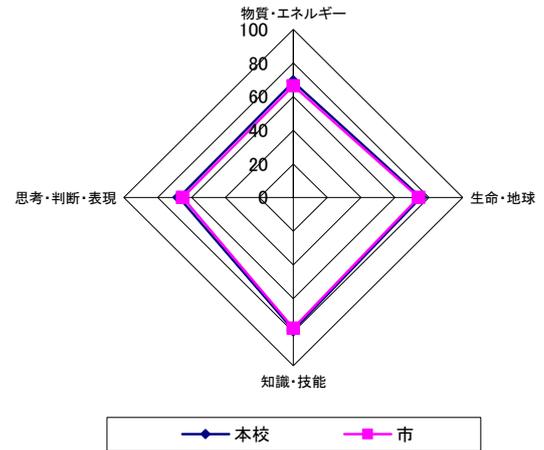
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、様々な事象の2つの量の関係をよく理解し、それらを式に表す練習を重ねた成果である。</p> <p>●「小数第一位×小数第一位の計算ができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・朝の学習や授業、宿題等で、プリント学習やAIDリルを活用した学習に取り組み、基礎基本の定着を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、三角形の角度に関する様々な性質について調べ、理解を深めた成果である。</p> <p>○「底面積と高さから角柱の体積を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。</p> <p>●「図に示された六角形の内角の和の求め方を表す式を選んでいるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・プリント学習やAIDリルを活用し、いろいろな図形の問題に繰り返し取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・教室の学習コーナーを活用し、既習の図形やその特徴を書いて掲示し、視覚的に継続して学ぶことができるよう工夫する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察しているか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、混み具合や人口密度に関する問題に繰り返し取り組んできた成果である。</p> <p>○「速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直すことができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。</p>	<p>・朝の学習や授業、宿題等で、プリント学習やAIDリルを活用した学習に取り組み、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・生活場面での有用性を実感できるような授業を意図的に設定するなど、工夫して授業を展開することで、理解を深めていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市とほぼ同じである。</p> <p>○「平均から全体の量を推測することができるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これは、授業で平均を求めたり、平均をもとに全体量を考える問題に繰り返し取り組んできた成果である。</p> <p>●「ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取ることができるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・各学年で取り扱うデータの整理の仕方について、算数だけでなく、社会科や他教科とも関連させ、実生活と結び付けた内容の授業を展開することで、データ活用能力を高めていく。</p>

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.8	66.5	66.3
	生命・地球	75.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	78.7	77.6	78.2
	思考・判断・表現	67.5	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市より高い。</p> <p>○「振り子の周期は振り子の長さによって決まることを説明できるか」や「振幅を変えても振り子の周期は変わらないことがわかるか」を問う問題では、市の正答率より高い。</p> <p>○「実験の結果から水溶液の種類を特定できるか」や「未知の水溶液を特定する実験の方法を計画できるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これらは、授業の中で課題を解決するための方法を考えたり、予想をもとに実験を行ったりする活動を取り入れてきた成果である。</p> <p>●「物の燃え方の実験結果について検討して改善できるか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・今後も、日常生活と理科の学習を関連付け、課題を自分事として捉えられるようにするとともに、根拠をもって予想したり、課題解決するための実験を計画したり、予想しながら実験したりする活動を計画的に取り入れていく。</p> <p>・さらに、今回課題となった「実験結果の検証・改善」を重視し、実験結果からの考察を大切にし、意見を交流させて学びが深まるよう、話し合いや振り返りの場を多く設定する。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市よりやや高い。</p> <p>○「台風の発生と進路について理解しているか」や「台風の風による被害を指摘できるか」を問う問題では、市の正答率より高い。</p> <p>○「月の形から太陽がある方位と観察した時刻を指摘できるか」や「太陽と月の位置関係から月の形の見え方を指摘できるか」を問う問題では、市の正答率より高い。これらは、1人1台端末や模型を活用して実際の台風の動きや天体の動き方を確認し、理解につなげた成果である。</p> <p>●「野生のメダカが何を食べるかを理解しているか」を問う問題では、市の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・実際に観察が難しい学習については、今後も、1人1台端末等のICT機器や模型を活用して、実際の動きや位置関係などを整理しながら学習を進めていく。</p> <p>・さらに、生命や地球に関心がもてるよう、日常生活と関連付けた課題を設定するなど、学習問題を工夫していく。</p>

宇都宮市立雀宮東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「インターネットやパソコンを活用して、学習に関する情報を得ているか」という質問では、市の肯定回答率を大きく上回っている。
・日記、作文指導	・授業や家庭学習で、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書き、書く力を養う。	
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習の記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。	・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」や「自分で計画を立てて学習している」の質問では、市の肯定回答率を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国語では、ほとんどの領域で、市や県の正答率より高い結果となった。しかし「話すこと・聞くこと」の領域では、話し手が伝えたいことの内容を捉えたり、意見の共通点に着目して考えをまとめたりする問題で、市や県の正答率より低い結果となった。そこで次年度は、国語の授業だけでなく他教科にわたり、話し合い活動を充実させたり、授業の中で児童同士が伝え合う場面を意図的に設けたりするなどして、力を伸ばしていきたい。また、「書くこと」の領域については、昨年度から日記や作文指導に力を入れて取り組んできたので、領域としては市や県の正答率より高い結果となった。しかし、市や県の正答率より低い問題がある学年もみられたので、引き続き「書くこと」にも重点を置いて指導していきたい。

算数では、「変化と関係」の領域で、市や県より正答率が低く課題が見られた。特に伴って変わる2つの数量関係において課題が見られたので、グラフや表を読み取ることや、比例や反比例に関する問題に取り組ませることで力を伸ばしていきたい。また、今年度力を入れて取り組んできた「図形」の領域では、市や県の正答率とほぼ同じか高い結果となった。引き続き基礎基本の定着を図っていきたい。

理科では、「粒子」の領域で、市や県より正答率が低く課題が見られた。実験や実体験をもとに理解が深まるよう授業を工夫したり、復習プリントを繰り返し活用したりして、基礎基本の定着を図ってきたい。